



宗教と社会倫理

社会を切り拓く宗教の可能性を考える



2025年6月21日(土)14:00~17:30

南山大学 G棟 G30教室

参加無料・一般聴講歓迎

現代社会において生じている紛争や戦争、世界的な影響力を有する大国の新たな政治的動向の背後には単なる経済的利益や政治権力争いに尽きない宗教的な次元での課題が潜んでいます。それと同時に、様々な形で災禍や不当な扱いを被った人々に対する支援活動を世界規模で展開する力の源もまた、宗教的な次元にあると言ってよいでしょう。日本の現代史を振り返れば、宗教団体による事件が日本社会に深い爪痕を残してから30年が過ぎた現在においてもなお、社会と宗教の懸隔は未だ大きいようにも思われます。他方で、特定の属性をもつ者に対する不当な扱いへの社会的な意識が大きく変化してきたなかで、宗教共同体内部では依然としてそうした扱いが問題視されにくいという実情もあります。

講師：**井川 裕覚**（淑徳大学アジア国際社会福祉研究所/主任研究員）

演題：明治30年代の監獄行政と宗教倫理—巢鴨監獄教誨師事件を例に

講師：**藤原 佐和子**（明治学院大学教養教育センター/准教授）

演題：エキュメニカル運動の視点から「女性の按手」を考える

討論者：**守屋 友江**（南山大学南山宗教文化研究所第一種研究所員/人文学部教授）

司会：**Mere, Winibaldus Stefanus**（南山大学社会倫理研究所第一種研究所員/法学部教授）

主催：南山大学社会倫理研究所（科研費 23K21876 共催）

【お問合せ】南山大学社会倫理研究所

Phone : 052-832-3111 (内線 : 3413,3414) Fax : (052)832-3703

e-mail : ise-office@ic.nanzan-u.ac.jp HP : <http://rci.nanzan-u.ac.jp/ISE/>

